

第82の山登頂ほか

2012.4.9 受信

ここんところ急に春の気配が強くなり、近所では色んな花が咲いてきました(我が家の紅桃。*)。その後、皆さん、お元気にお過ごしでしょうか。お久しぶりです。

当方、3月末から風邪気味になり、最初は喉が痛く、それが治まると鼻水が止まらず、結果的には、10日間位静養の時を過ごしました。日参していた陶芸も臨時休業で、家のソファで読書などで過ごしました(お陰で、岡山・長島愛生園で、献身的に活動された女医・神谷美恵子さんの自伝「遍歴」を読破出来ました)。その間は、禁酒期間でもありました。お医者によると、「これは、正真正銘、花粉症！」との診断で、アレルギー対策薬を処方されました。その薬のせい、静養のせい、花粉の時期が過ぎたせい、自力復活力(?)のせい、どれかにより、数日前よりほぼ回復。本年度の花粉症グループ脱会の時期となり、生来の遊び人の復活です。日参陶芸の復活のほか、以下の行動をすることにしました。

まずは、4月7日(土)、前回報告しました定例の出合ウォーキングの会(4月版)への参加です。

今回は、例の「ウォーキングの華3点(途中から+1点合流し計4点)」を入れ、総勢15名が、8時40分、出合公民館集合。

準備体操の後、公民館より、まずは西へ。まもなく、篤姫や秀吉も通ったであろう我が家に近い旧山陽道(北)へ入る。アップダウンを2~3度繰り返し、土地の福田部落へ。そこから道を東へとり、少し上って峠を過ぎれば、下る一方。

私の住んでる地域も田舎ですが、今回巡った地域はもっと田舎々々しており、車の通日も稀で、道すがらのんびりした雰囲気を楽しみました。

風は少し冷たい感じでしたが、空は青空。

途中には、春を彩る花々が沢山ありました。

こちらで、今、満開絶頂期の桜と水仙をはじめ、白木蓮、西洋タンポポ、ぼけ、バラ、個人のお宅の庭先のチューリップ、椿、レンギョウ、あんず、桃等々、花の名に疎い私でさえ、こんなにも名前が出てくるほど。“つくし”も群生してましたよ。ウグイスも何度も鳴いてくれました。途中では、もうツバメも飛んでいました。春だなーの感じ。

その後ウォーキングは、南方向へ進路を採り、JR新幹線高架下を潜ったり、約2時間少し経過してもとの公民館へ到着。万歩計は14000を超えてましたので、10KM近く歩いた勘定になりました。途中合流の奥様の1口チョコレートと飴玉がエネルギー源だったか。病みあがりです。当初少々心配しましたが、全然OKでした。

結局、ウォーキングは11時頃散会したわけですが、今度は、別口のお友達のお誘いで、我が家から車で20分程かけて海辺へ出かけ、午後2時過ぎにワカメ採りに出陣。干潮3時半ごろまで、汐が引いてワカメ採りの好機です。足元はあっちにもワカメ、こっちにもワカメ。バケツを2個持参しましたが、ものの30分もしないうちに山盛り満杯。昨年までと違い、今年

は比較的岸近くでワカメが“た易く”収穫できました。持ち帰り、あっちにもこっちにもおすそ分けし、もちろん自宅の夕食にも、とれとれワカメ料理の出番でした。

明けて4月8日(日)、今日も晴れ、今日は昨日と違って、風も殆ど無い。
我が家から南方向、割と近い日の峯神社の、年に一度の例祭へ。日の峯山(ひのみねさん、標高148M)への山登りです。

この神社は、日の峯山の頂上に鎮座し、眼の神様と言われております。名前の通り、昔は、西(下関)の火の山や東(宇部)の火の山と繋がった烽火(のろし)の中継地であったところです。今は、頂上付近の木々が生い茂り、なかなか海の眺望は臨めませんが(※)、その昔は頂上は草地で、そこに5本の松の大木があり、地元(山陽)・埴生漁港や東(小野田)・刈屋漁港の漁民は、この松を灯台換りに利用していた由。

我が家を7時半頃出発。小ペットボトルのお茶とお供えの水、タオル、非常用傘をリュックに忍ばせ、旧3号線および新3号線を越え、南へ15分ほどで日の峯参道入り口へ。

まもなく、時代を経て刻まれた文字も解り難い石の鳥居をくぐる。
この鳥居に掛かるしめ縄、頂上の社に掛かるしめ縄、いずれも1週間前に、近隣の部落有志が参道の整備と共に作り直した産物です。しかし、参道は2~3日前の強風(暴風)で、折れ枝が散乱しておりました。

参道(山道)は短いとはいえ、結構急こう配です。途中には、(5)合目表示の石もありました。頂上到着は、8時10分前。家を出発して、休むこともなく登り、30分足らずでした。

上記のように、以前は海からの標識になっていたのですが、頂上からも海が良く見えたいらしいのですが、今は周りの木々で海はなかなか見えません。今年の清掃の日に少し木を伐採したので、明るくなるとともに幾らか海を垣間見ることが出来るようになりました。来年は、更に木を伐採する予定とのことで、いずれは頂上から、海も見渡せるようになるのでしょうか。

古くからこの地に住んでいる人に聞けば、頂上では祭りの日にお店も出ていたと言う。今年は、少数精鋭で参列。宮司さんの祝詞を拝したのは、先陣を切って登った私を入れて7~8人でした。

私の次に、当番の案内役(神役という)に伴われた宮司さんが来て、社殿内(3畳か4畳半位)の飾り付けをし、皆で、宮司さんのお勤めに従い、有り難いお札を頂いたのです。当方は、毎年別行事と重なり、お祭りに参加したのは初めてです。きっと今年は何か良いことがあるでしょう。

頂上到着は割と早かったのですが、頂上付近の清掃、宮司さんの到着を待つ、更にお社の準備を待つ、宮司さんのお勤めをお伺いする等々で、頂上滞在は9時半過ぎまで。もとの道を辿って、我が家へ10時頃に無事到着。歩行数は6000歩程度でした。添付写真の最後(※)は、近くの高木に咲く桜です。



海、山、野原と、田舎の春を満喫する両日でした。

山口/古賀

ウォーキング記

2012.3.5 受

信

こちらの冬は、例年になく何度も雪が降ったり、積ったり、地球は温暖化と言ってるのに、瞬間的な現象かも知れませんが、冷えました。

それでも、やっと近所の梅もほころび始め、次第に冬→春の気配です。

しばらくご無沙汰している人が多いのですが、皆さん、お元気にお過ごしのことでしょうか。

久しぶりの山口支部報告ですが、山・登頂記ではなく、ウォーキング記です。

山に関しては、地元山の会の行事もありましたが、こちらの都合が悪かったし、「市主催の松獄山・初日の出を拝む会」は天気予報曇り、自分の体調もいまいちで、これも無し。と言うことで、山とはしばらく疎遠になっております。

話変わって、当方この1か月、2週間おきに腰痛に見舞われ、苦痛の日々を過ごしました。思い当たる原因がありません。同じ姿勢を保って、次の動作に移る時が大変。うちの奥方には、愛情も無く「歳のせい」と一蹴された次第です。歳のせいより、ここ数日がそうであるように、天候おだやかで、今は回復基調です。更に暖かくなれば、この問題も解決するものと思っております。

またまた話変わって、当市は全市にまたがる自治会連合会がありますが、少し小分けし、小学校区ごとの自治会の協同体(連合会の分科会)があり、私の住んでいる地域は、出合小学校区で、**出合(であい)**地区と呼んでいます。この地域には、昔からの氏神様を祭る神社が2か所あり、私の住む山野井の**山野井神社**と、もう一つは山川地区にある**山川神社**です。先賢人が、この両方の「山」を(上下に)合わせ、**出合と名付け、皆で出合を楽しもうとした**由。

この出合地区で、有志の発案で半年前位から「出合健康ウォーキング」が始まり、私も早速入会しました。毎月第1土曜日が、例会の日です。

今月は、2日に実施。公民館(公民館も出合公民館と言う)に8時半頃集合。今回は、初参加の隣地区の御夫婦と従来メンバーの奥さんが加わり、従来全く色気のなかった会に、2輪の花が咲いたのです。

男性メンバー8人を加え、準備運動のあと、9時前に公民館出発。まずは、旧国道2号線(今や格下げされ県道225線)を、西(山野井方面。我が家の方角)へ。10分ほどで、今や廃屋のラーメン店や鉄骨だけになったパチンコ屋の脇を左折(南進)し、山野井工業団地へ入る。山野井工業団地は、新山野井工業団地と合わせ、この田舎に、30社程の企業が這入っています。

企業の間を抜けて、(以前、バイパスと呼んでいた)新2号線に付きあたり、ここで道沿いに東へ少し戻る。坂を下って、今度は少し上れば、新山野井工業団地へ。少しで、今や**太陽光発電装置**で意気盛んな長州産業(株)の前へ。本工場敷地の前には、30~40Mの間、ずらりとパネルが並ぶ。自社工場用の電気に使っているのでしょうか。刻々と変る発電量が掲示してある。

長州産業の隣の公園で休憩。持参の180ccペットボトルのお茶を飲む。

休憩後、公園の裏手の、人しか通れないような雑木に挟まれた自然道へ。工場から、急に自然の風景への変化です。田舎らしくて良い。舗装のない道は、少しぬかるんで、注意しながら歩く。道の脇に小川が流れ、小川の底はオレンジ色。この辺の地質は鉄分が多いでしょう。ちょっと行くと、青緑色した池の付近へ出る。メンバーのNさんが、「小さい頃は、あの池で泳いでた。フルチンで！」と。今の池の色からは考えられない。また、Dさんによると、近

所に、以前の炭鉱の鉱口も残っていると。昔は近郷近在で石炭(無煙炭)を掘っていた。坂を下ると、人家のある地域へ出る。何軒か過ごし、**厚狭毛利家菩提寺・洞玄寺(とうげんじ)**へ。

厚狭地区を治めた厚狭毛利家は、ご存じの**戦国武将・毛利元就**の五男・元秋が始祖で、洞玄寺には、本堂裏に一族歴代の墓があります。境内には、1790年に改修されたとかの山門にあった阿吽の鬼瓦が置いてありました。瓦には厚狭毛利家の家紋に使った沢瀉(おもだかと読む)という水草の模様が彫り込んでもありました。

この寺の境内で思い思いに少し休憩。寺を辞して、すぐ曲がって、今度は北へ。淡々と川(名前は解りません)のほとりを北へ進む。遅ればせの蠟梅もあったし、梅の木も何本かは花を開いてました。

少し行き、ラブホテル(Bay Hill Club)の脇を通り、旧国道2号線を突っ切り、車の少ない旧道を左(西)に折れる。公民館はまもなく。

公民館着10時40分で、約2時間の歩行。百均で買った万歩計の数字をチェックすると9854歩。距離は、私の歩幅で計算すると約7KM。「お疲れさまー」と散会。やや汗ばんで心地よい朝でした。

山口/古賀

第81の山登頂記

2011.12.7 受信

良く見ると、この寒さの中でも、朝廻る犬の散歩道の脇には、地味ですが何点かの小さい花がひっそりと咲いています。最近、何の加減か、これらの花を一週間に一度くらいは少しばかり摘んで帰って、小瓶に生け楽しんでおります。秋もいよいよ深まり、近所の大銀杏も盛んに葉を落とし、黄色い絨毯が目映えます。

寒さも次第に強くなって来ていますが、皆さん方、その後もお元気にお過ごしのことでしょうか。

12月4日(日)、地元山の会の行事で、九州・くじゅう連山のうちの三俣山(本峰・標高1748M)に登ってきました。大分・別府から熊本へ抜けるやまなみハイウェイの途中、長者原付近から見るその山容は、いかにも威風堂々としています。どこから見ても三峰の山に見えることよりこの名が付けられているようですが、実際は四つの峰からなっている。今回はそのうちの西峰と本峰(主峰)に登頂しました。

登山当日、メンバー7人(男3+女4)は、リーダーが早朝4時半過ぎから順に参加者をに拾ってくれて、中国道~九州道~大分道を経由し、その間、途中の幾つかのSAで朝食を採ったり、弁当を買い込んだり、また走行の途中では深い霧に包まれたり、更には大分道に入り東へ向かっていた車窓からは、金色に輝く日の出を拝んだりして、結局、9時前に長者原の少し西寄り、ヘアピンカーブの大曲駐車場(道脇のスペースを利用した車10台位が置ける、半ば登山者専用の駐車場)に到着。ここからも、頂上付近が雪化粧している三俣山が見えました。

我らが登山準備をしていると、ほぼ同時期に運転手つきレンタカーで到着した10人位の佐賀の登山団体は、すぐに準備運動。そのうち早々に登山口に向かって行きました。ここで、高度計をチェックしてみたら約1250M、頂上まで標高差約500M。若い頃なら1時間で登った高さ。我々も9時15分過ぎには登山口へ。使用前の揃いの記念写真撮影を終え、登山開始。

前日まで2日間雨が續いていて、そのせいでクマザサの間を縫うように続く登山道は、足元が一部ぬかるんでいた。当初は、黒い火山灰土の汚れを気にしていたが、スパッツを付けているので、「それ以上は関係ない」と開き直り、それほど気にせず歩く。いきなりの急登で、久しぶりのせいもあり、気が引き締まる。

30分も歩くと、硫黄山の硫黄回収作業用に開いたと言う鉱山(コンクリート)道に踏み入る。道も広く歩行の障害も無く歩き易く、正面に三俣山の全容を見ながら、だらだら道を登って行く(※)。右手奥の方に白い煙がモクモクと立ち上る硫黄山を臨みながら登って行くと(※)、道脇にがっちりした鉄製の柵というか、塀と言うか、立ち並ぶ。良く良く見ると、塀の中は、大小の岩石の山。塀は土石流対策柵と解る。塀を過ぎると、もろに岩石が立ち並んでおり、僅かなショックを与えただけで今にも転げ落ちそうな岩が幾つもある。「この辺で休憩不可。止まらず進め。」の標識あり、休まず進む。三俣山の山裾は随分近くになった。

そのうち、鉱山道を逸れ、岩だらけの登山道へ入る。岩の上に、登山者を導く黄色いペンキで書いた丸印が、「これでもか、これでもか」と言う位、沢山書いてあった。この付近まで来ると、足元には霜柱が……。そうするうちに、あっちにもこっちにも樹氷が……。美しい(※)。カメラの無い人もケータイカメラを駆使し、撮影会の様相を呈し、いよいよ登山時間は延長、延長。われらの登山は、急ぐ旅では無い、楽しむ旅です。

登山開始後約1時間半(標高は1500Mで、やっと予定の標高差の半分消化)経過。谷あい、右手に石室のある「すがもり越え」に到着。当初は、ここに売店もある木製の小屋があったが、壊れて石室に変更されたという話。小屋の営業はしばらく続いていたが、今ではそれも無くなり、避難用石室と一画の釣鐘だけが残る。誰かが鐘を撞いた。石室を背に左手に振り返ると三俣山の急勾配が見上げられる。谷あいの進行方向まっすぐ方向奥には、以前つづきの時期に登

った平治岳が。ここも頂上付近に白い帽子をかぶっていた(※)。以前登った山が姿を変えて見え、感慨深い。近くにあった温度計を見ると2℃位。

一服後、再び、三俣山に取り付く。振り返って硫黄山の煙を鑑賞したり、平治岳の様子を見たりしながら、岩だらけの登山道を登って行く。木の枝に着いた樹氷の氷が、先ほどより幅広くなったようだ。12時頃やっと、三俣山西峰頂上(標高1678M)に到着。

日差しはあるが、風が冷たいので、じっとしていたら寒いくらい。風を避ける側のクマザサの中に陣取り、めいめいが持てる防寒着を着こんで昼食。この寒さの中、でもやっぱり乾杯はビール。女性陣からも、思わず“美味しい”との声。私は、自家製弁当を持参したが、殆どの人が、SAのコンビニで買った弁当を開いてぱくつく。私からは、山口特産、県北部・徳佐のリンゴをデザートにプレゼント。奈良漬も廻って来た。

昼食後しばらくして、本日第2の峰、本峰方向へ進む。少し登り進み、30分程だったでしょうか、頂上到着。登頂記念のバンザイポーズの集合写真撮影(※)。西峰同様、ここも360度眺望OK。気温は0℃か1℃かくらい。

下山は、もと来た道を折り返す。足元がぬかるんで滑って困ると予想していたが、日差しを受けた地面は、案外乾いていて助かった。下山時間は、登りより速く、すがもり越えまで50分位、駐車場には2時間半位で(16時前には)到着。三俣山を振り返ると、日差しがあった側なので、頂上までの白い帽子はすっかり消えていた。

当日の歩行数はなんと16331歩。思わず頑張っていた。

この日は、駐車場から30分ほどの距離にある湯坪温泉の民宿に泊る。露天風呂で一風呂浴びた後、事情により登山しなかった別行動の4人とも合流し、忘年懇親会開催。ビールもふんだんに注文したが、持参の焼酎5合瓶2本も無くなった。

翌日は、帰るだけでも良いが、折角と言うことで、大分・豊後大野市にある紅葉で有名な用作(ゆうじゃくと読む)公園に観光。生憎、盛りを殆ど過ぎて、後期高齢紅葉となっていた。旧岡藩・家老の別荘地跡とかで、心字池の周りの紅葉など、ピーク時は見ごたえのありそうな公園であった。

以前から良く目にしていた威風堂々の三俣山、更に、今回は全くの青空のもと樹氷まで見る事が出来、感動の登山を楽しむことが出来た。

山口/古賀

参考)インターネット;フリー百科事典「ウィキペディア」より抜粋。

霧氷:氷点下の環境で、空気中の過冷却水滴もしくは水蒸気が、樹木その他の地物に衝突して凍結もしくは昇華することで出来る。白色や透明の氷層の総称。いわば自然現象としての着氷現象。普通、樹氷・粗氷・樹氷の3つに分類される。

樹氷:冬山などで、過冷却水滴からなる濃霧が樹木などの地物に衝突し、その衝撃で凍結・付着した氷層。一般的に氷層を付着させた樹木そのものを指して樹氷と呼ぶこともある。気温－5℃以下で生じる。

第80の山登頂記

2011.10.10 受信

我が家の近所では、当方命名の「山野井富士」(公式には宮野岳)をバックに、篤志家の方が自分の畑を变身させるべく植えたコスモスの花が咲き乱れています

(※)。近寄って見ると、太陽に照らされ、まるでカスミソウのごとき草々に囲まれて咲くコスモスも良い(※)。

皆さん方の地域でも、秋の兆しがぐいぐい迫っていることと思いますが、その後もお元気にお過ごしのことと思います。

10月9日(日)、下関市のやや北部にある華山(げさん。標高713M)に登ってきました。この山には、以前にも登ったことがあります。下関市の賑やかな市街地から、北部に抜ける道からみると、目立って雄々しくそびえる山で、古くから信仰の対象であった由。

登山当日、メンバー6人(男4+女2)が、朝8時半に公民館に集合。リーダーの車で40分ほど走り、登山口の神上寺(じんじょうじ)口前駐車場に到着。

登山靴を履くなり、トイレに行くなり、準備体操をするなり、皆それぞれに準備。今回参加の、元スーパーの女将から差入れのバナナを頂き賞味、更に併せて頂いた何個か飴玉の入ったビニール小袋から朝鮮人参入りの飴玉を口に(これが朝鮮人参の味かー!)。すぐ近くに立つ近松門左衛門出生伝説(彼はこの辺で生まれたと)の碑などを眺める。近所のおばあちゃんが、駐車場脇の大きい栗の木から落ちた栗の実を拾いに来た。

登山口(お寺の参道入口)の脇で、使用前の全員写真を撮り、登山開始。時刻は9時半頃。まずは、神上寺参道の石段を本堂の方へ登って行きます。このお寺は西暦700年頃開山され、以来皇室や藩主とかの「えらいさん」も御参りした西の高野山と言われる古刹で、仁王様が入る山門には高野山神上寺の表札(?)が掛かっていました。登っていく石段は、段差が大きく(高く)ちょっと大変。道脇の赤い毛糸の帽子を被った石仏さん達を見ながら、登って行くとすぐに、紅葉の時期には絶景の雪舟の庭に至る。京都あたりの寺と違い、

洗練さは幾分劣るが、この時期、緑々したもみじの枝が庭を蔽う「さま」も又良い（※）。

更に、観音様や道脇の小さい仏の石像を見やりながら登り、途中脇の本堂では「5円」のお賽銭を上げ安全を祈る。更に石段を登って行く。石段はしぶとく続く。30分も登ったところで、自然に詳しいKさんが“「くるみ」が落ちている。”と教えてくれる。実を剥くと確かに見慣れたくるみの実（種）が出てきた。見上げると、細い枝にいくつもの緑色の実がくっ付いていた（※）。これが、くるみの実で、木にはこんな風になっているのかと初めての経験。賑やかな声と共に、小学生らしい5人の子供と大人のグループが登って来た。さすがに元気が良い。3人のお子さんのお父さんが子供の友達2人も一緒に連れて登って来たという。「山は、金が掛からんでいいですよ。」とのお話。私達と同じ町と同じ地区の人達でした。もちろんすぐ追い越して行きました。

私らは、今度は横木で受けた登り道を歩きます。頂上まで道幅はずっと2M位あり、枯葉の落ちた比較的平坦な整備された道でした。時々枯葉の下に隠れた石ころに足をすべらせながら。登山の途中、適宜休憩し、一度は「手作りスイートポテト」、更に次には「チョコレートパン」の、なかば強制的な差入れを頂く。道半ば（今回の全登山長／2.9KMの中央付近）まで1時間ちょっと。いちょうの葉が陽に映えて美しい（※）

途中は、前回の観音岳の様なきのこも少なく、淡々と登っていく。体感的には結構登った感じでした。

頂上少し前で「岩屋観音」の標識がある。朱色の鳥居の先の大きい自然石の下が祠みたいになっていて、その奥に2体の仏様を従えたこれも自然石の観音様があった（実は、前座の2体の仏様ははっきり見えたが、奥の観音様は暗くてよく見えなかった）。西暦800年頃、弘法大師が祀って開いて、この一帯は老杉の繁る霊場になり、ここは修繕道場、登山口の神上寺の奥の院になっているとの説明書があった。

そこからすぐで、テレビ局の鉄塔の頭が見えた。頂上近し。立ち並ぶ各放送局のテレビ塔。真上を仰ぐとパラグライダーが舞っていた。三角点まで水平に少し歩いて、丁度12時に頂上到着。先述の子供達は、頂上のちょっとした広場を走り回って遊んでいました。まだまだ元気いっぱい。お互いのグループの写真のシャッターを押しあい、それぞれの記念撮影完了。

さあ昼食会です。ちょっと辛みを強めたしょうゆ豆も出しました。茄子の辛子漬けや旬の野菜の煮込み、茗荷の甘酢あえなどの差し入れも美味しく頂きました。もちろんこれらは、私にはビールの「あて」です。

ランチタイムも終わり、近くは濃く遠くはぼんやり、墨絵の様に霞んだ周囲の山々を見たり、昼寝をする人など、頂上で約1時間を過ごし、下山開始。

途中、一匹のアサギマダラ蝶を見たり、登る時見つけたくるみの実を集めたり、途中休憩時持参の一口コーヒー（ポットのお湯を分けると、一人分は一口分しかない）を出したりはしましたが、全体に淡々と下り、約2時間で神上寺境内付近に到着。お寺の付近で道を車道に変えたので、雪舟庭は今度は反対側の道から覗く格好になり（※）、駐車場に。一路、公民館へ走り、いつもより早めの16時頃到着。

道は木々に覆われ、懸念した日照りも無く、時折涼しい風が吹いたりして、爽やかな気候のなか、登りのちょっとキツイ登山でした。歩行数14831歩。





山口／古賀